

**実践 1** 第一学年公開授業

**第1学年 算数科学習指導案(略案)**

3組 男子12名 女子13名 計25名  
 指導者 小宮路 伸也  
 授業日 平成17年9月12日(月)3校時

- 1 単元名 「10よりおおきかず」
- 2 単元の目標
  - ものの個数, 順序などを数を用いて正しく表すことができるようにするとともに, 数の概念について理解できるようにする。
  - 具体的な事物について, まとめて数えたり等分したりし, それを整理して表すことができるようにする。
- 3 本時のねらい(1/9)
  - 20までの数について「10といくつ」と表して数えるよさが分かる。
  - 20までの数について正しく数えることができる。
- 4 指導にあたって(表現力育成のために)
  - 表現の内容・・・絵やブロックなどを操作することで自分の考えを持たせる。
  - 表現の方法・・・自分の数え方を友達に説明し, 自己評価させる。
- 5 本時の流れ

	児童の学習活動	時間	教師の動き・支援
つかむ	1 教師が提示する絵(パワーポイント)を見ながら, 赤とんぼの数に見当をつける。 あかとんぼは, なんびきいるでしょうか。	5	児童の興味を引くためにパワーポイントを用いて2匹, 5匹, 13匹の赤とんぼをそれぞれ提示する。その際, 素早く画像を消し, 「たくさんの数をひとめで理解するのは困難である」という問題意識を持たせるようにする。
	<b>なんびきいるかひとめでわかるかぞえかたをみつけよう。</b>	/	児童の思考を助けるために, 「どんな数え方があるかな」と発問し, 何種類か挙げておくようにする。
調べる	2 様々な方法を使って赤とんぼの数を数える。 ・ブロックをひとつずつ置いていく ・えんぴつでチェックをしながら ・10のかたまりをえんぴつで囲む ・2匹ずつ, 5匹ずつ など	5	児童がどのような方法で数えているのかを机間指導をしながら把握し, いろいろな方法を使ってみるように助言する。特に2回目以降はブロックも使ってみるように助言する。
	3 自分の考えを近くの友達と教えあう。	/	児童の思考を広げ, 様々な方法があることを知らせるために, 近くの友達どうして考えを交換させる。
繰り返し合う	4 自分の数え方を友達に発表した後, 「何匹いるか一目でわかるためにはどうすればよいか」ということについて焦点化する。	3	自分の考えをしっかりと相手に伝えることができたか, 相手の説明が理解できたかを確認するために, 挙手により自己評価をさせる。
	5 10のかたまりと3で「じゅうさん」であることを理解する。 <b>10のかたまりとばらでかぞえる。</b>	/	発表する児童の考えが友達に伝わりやすいように, ワークシートやブロック, チョークなどを効果的に使わせる。また, 多様な数えが児童から出るように, 意図的指名を行う。
まとめる	6 ここまでの学習を生かし, 10のまとまりに気をつけながらたまごの場合を数える。	15	10のかたまりの意識づけを図るために, 11匹目を数える時に「じゅういち」と数えないように注意する。
	7 本時の学習を振り返り, 次時の学習内容について想起する。	/	どの数え方が一番わかりやすいか児童とやりとりをしながら, 答えを見つけていく。 10のかたまりをしっかりと意識づけさせながら説明をする。(13という表記には踏み込まず「じゅうさん」と表現する。)その際, 10個ブロックを置いたら線で囲ませるようにする。
生かす		8	10のかたまりを作ることの意味理解を定着させるために, ここまでのまとめをし, たまごの場合について考えさせる。
		7	次時につなげるために, 「どんな書き方をすればよいのか, 20までにはほかに数はないのか」等の話をして終わる。
		2	

## 6 評価

### (1) 本時のねらいに対する評価

20までの数について「10といくつ」と表して数えるよさが分かったか。

20までの数について正しく数えることができたか。

### (2) 表現力育成に対する評価

様々な方法を用いて、積極的に数を数えようとしているか。(関心・意欲・態度)

**自分の考えを自分なりの言葉で表現することができたか。(表現・処理)**

## 授業の実際の様子



導入



自己解決



相互表現



全体表現